

折に触れ 四字熟語

NO. 281 『池魚之殃』 ちぎよのわざわい

< 意味 > 何のかかわりもないのに、思いがけない災難に遭うこと。まきぞえをくうこと。特に、火事で類焼に遭うこと。また、火事のこと。

< 出典 > 『呂氏春秋』必己、『太平御覧』九三五に引く『風俗通』

< 故事 > 中国春秋時代の宋の桓魋が池に投げ込んだ珠を探すため、池の水をさらったので魚が死んでしまったという故事から。また、城門が火事で焼けたとき、池の水を使って消火したために魚が死んでしまったという故事。また、池中魚という名の人が出て、その人が焼死してしまったという故事もある。

表 言： 池魚の殃を受ける

語 釈： 「池魚」は池の中の魚。「殃」は災い・災難のこと。「殃」は「禍」とも書く。

一 言： 能登半島地震のニュースに続いて、1月2日には羽田空港の滑走路で日本航空と海上保安庁の航空機同士が衝突し炎上するという大事故が起きました。事故の原因はまだ正式には確定されていませんが、日本航空の乗客にとっても海上保安庁の操縦士などにとっても思いがけなくまきぞえを食った事故でした。

参照文献： 岩波書店「四字熟語辞典」